

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2\_健康・福祉】

施策 2-2\_地域福祉の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
2-02-01	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	03384_01	総合福祉センター施設整備事業
2-02-01	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	03390_01	福祉のまちづくり推進事務費
2-02-01	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	03502_01	福祉政策研究事業
2-02-01	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	03527_01	民生児童委員活動補助金
2-02-02	地域福祉活動の推進と担い手の育成	03020_01	社会福祉団体補助金
2-02-02	地域福祉活動の推進と担い手の育成	03025_01	遺族会等活動事業補助金
2-02-02	地域福祉活動の推進と担い手の育成	03025_02	戦没者遺族等対策事業
2-02-02	地域福祉活動の推進と担い手の育成	03390_02	生き生き幸せフェスティバル開催補助
2-02-03	生活困窮者支援を通じた地域づくり	04256_01	若年がん患者在宅療養支援事業

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03384_01		
事業名(行目名称)		総合福祉センター整備事業	細事業名	総合福祉センター施設整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実			
	基本計画	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	担当課	地域福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者及び障がい者(児)を含む全ての市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	老朽箇所等の改修及び修繕、利用者の新たなニーズに対応した施設整備					
	目的(どんな状態にしたいのか)	総合福祉センター(別子山分館を含む)の適正管理及び施設機能の維持向上					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		77,279	71,368	71,368	55,939	(繰越)昇降機改修工事 14,196千円 弱電設備等改修工事 23,881千円 空調設備改修工事 47,487千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	69,500	64,200	64,200	50,300		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	7,779	7,168	7,168	5,639		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
改修及び修繕の実施		目標値	2	2	3	3	2
		実績	2	2	1	3	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設の建設後25年が経過しており、老朽箇所の改修及び設備機器の更新等施設の長寿命化を計画的に進めていく必要があるが、建物の構造や工法などによりいずれの工事も高額になる傾向がある。今後必要な設備を整理し、効率的な維持管理ができるように検討する必要がある。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
施設の改修箇所によっては費用が高額になるものもあるため、内容を精査しながら施設の適正維持を図っていく。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
建築後四半世紀が経過しており施設のあちこちで改修や更新が必要な状況であるが、現在の施設利用状況を考慮した上で必要な設備と改修の優先度を整理し、適正な保守管理を行う必要がある。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03390_01		
事業名(行目名称)		福祉のまちづくり推進費	細事業名	福祉のまちづくり推進事務費			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実			
	基本計画	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	担当課	地域福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	全市民	数値	120351			
	手段(どうやって)	福祉のまちづくり審議会の開催。審議会における計画実行の確認及び計画の見直し					
	目的(どんな状態にしたいのか)	市民参画による福祉のまちづくりを着実に推進する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		7,242	117	117	0	委員報酬 @9×13人=117千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	7,242	117	117	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
審議会及び推進懇話会の開催回数		目標値	3	5	3	3	3
		実績	0	4	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
審議会については、今年度前半は議題がなく開催がなかった。 推進懇話会については、地域福祉推進計画について協議する会であり、今年度の開催予定はない。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
審議会については、福祉のまちづくり条例及び福祉のまちづくり審議会規則に基づき、継続して設置する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年度は、審議会にかけられる議案がなかったため実施されなかった。							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03502_01		
事業名(行目名称)		福祉政策研究費	細事業名	福祉政策研究事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実			
	基本計画	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	担当課	地域福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	福祉部職員	数値	232			
	手段(どうやって)	先進地視察等					
	目的(どんな状態にしたいのか)	懸案事項解決のため。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	旅費 300千円	
経費		0	300	300	0		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	300	300	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
福祉政策研修参加回数		目標値	5	5	4	4	4
		実績	1	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の観点から県外への出張を見送っており、未実施の状況である。下半期も新型コロナウイルス感染症の影響がどのように出るか不透明であるが、来年度以降は状況を鑑みつつ、早期に実施計画の検討を図りたい。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>福祉政策の変革に的確に対応していくため、現状維持とする。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>国・県の施策への対応や先進地研修など、福祉行政において政策研究は必要不可欠であるが、昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修は見送りとなった。全国規模でワクチン接種が進み、行動制限もなくなってきているが、視察研修等は今後の感染状況と緊急性、必要性を考慮して検討する必要がある。</p>							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03527_01		
事業名(行目名称)		(施) 民生児童委員費	細事業名	民生児童委員活動補助金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実			
	基本計画	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実	担当課	地域福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	民生児童委員・主任児童委員		数値	294		
	手段(どうやって)	民生児童委員、自治会など地域で福祉活動を行っている多様な主体が、行政と協働して問題解決を図っていく体制を強化するとともに地域の特性を生かした地域福祉活動を推進する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	民生児童委員の活動推進					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	500	500	0	補助金 500千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	500	500	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
民生児童委員研修参加数 (何らかの研修に1回は参加する)		目標値	294	294	294	294	294
		実績	293	78	0	115	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年開催されている各種研修会が中止、またはDVD配布による自主研修等になっている。下半期には各専門部会研修を実施する予定であることから、参加者数は目標値に近づけることができると想定しているが、オンライン研修への参加など、計画遂行に努める。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>県内で開催される研修については市のマイクロバスを活用するなど、経費節減に努めつつ、より効果の高い研修活動を行う。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動制限等により、県民協主催研修会も軒並み中止となり、視察研修等も行えなかったが、オンラインでの開催が増加している。今後は、オンライン開催に加え、新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、実地での経験年数に応じた研修や課題別に対応した研修受講により、民生児童委員の職務遂行に必要な知識と技能を習得するとともに資質向上を図る必要があるため、今後も計画通りに事業を進めることが適当である。</p>							

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03020_01			
事業名(行目名称)		社会福祉団体助成費	細事業名	社会福祉団体補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実				
	基本計画	地域福祉活動の推進と担い手の育成	担当課	地域福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	社会福祉団体	数値	12				
	手段(どうやって)	社会福祉団体の活動支援(補助金支出)						
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域福祉意識の啓発と推進体制の充実、障がい者への理解と社会参加の促進、障がい福祉サービスの充実、防犯対策の推進などの地域福祉課題の解決を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		2,361	2,393	2,393	1,995	補助金 2,393千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	2,361	2,393	2,393	1,995			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
地域福祉イベント 参加者数			目標値	5000	5000	5000	5000	5000
			実績	6033	700	100	682	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
障がい者に関するさまざまな法律が整備され、障がい者の活動等を市民に理解促進していくことが強く求められており、社会参加が促進されるように関係機関に訴えていく必要がある。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
山積する地域福祉課題や、年々複雑化する市民の福祉ニーズに行政だけで対応することは困難であり、社会福祉団体の各種活動に対する支援を行いながら、行政と市民が連携して地域福祉の推進を図っていく。								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
地域福祉意識の啓発と推進体制の充実、障がい者への理解と社会参加の促進、障がい福祉サービスの充実、防犯対策の推進などの地域福祉課題の解決を図るため、社会福祉団体と連携しながら、今後も計画通り事業を進めていくことが適当である。								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2021	03025_01		
事業名(行目名称)		戦没者遺族等対策費		遺族会等活動事業補助金				
総合 計画	まちづくり	健康・福祉		施策				
	基本計画	地域福祉活動の推進と担い手の育成		担当課				
II 事務事業の実施概要								
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	新居浜市遺族会会員			数値	700人		
	手 段 (どうやって)	各校区の忠魂碑の周辺整備、県遺族大会の参加						
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	遺族会活動の円滑化のため						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	補助金 172千円		
経費		179	172	172	172			
財 源	県・国支出金	179	0	0	172			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	172	172	0			
IV 指 標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
遺族会活動への参加者数			目標値	1400	1400	100	100	100
			実績	1104	100	50	300	—
V 事 中 評 価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種活動の実施が制限されているが、市民の草の根運動として活動されており、コロナ禍の制限がある中でもできることを対応していく。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>戦後76年を経過し、戦争体験者や当時の遺族は減少しているが、恒久平和の推進は今後も必要な取り組みであるため現状維持とする。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>会員の高齢化が進んでいるが、戦争のない恒久平和の維持推進のため民間主導で実施されており、戦没者遺族援護を含め今後も計画通りに事業を進めていくことが適当である。</p>								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03025_02			
事業名(行目名称)		戦没者遺族等対策費	細事業名	戦没者遺族等対策事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実				
	基本計画	地域福祉活動の推進と担い手の育成	担当課	地域福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	戦没者遺族及び一般市民	数値	500人				
	手段(どうやって)	新居浜市戦没者追悼式実施、愛媛県戦没者追悼式参加、滝の宮慰霊塔の改修工事						
	目的(どんな状態にしたいのか)	追悼式参加者を維持する。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		134	1,215	1,215	135	委託料 1,115千円 使用料及び賃借料 100千円		
財源	県・国支出金	93	0	0	71			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	41	1,215	1,215	64			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
新居浜市戦没者追悼式参加者数			目標値	600	600	0	0	0
			実績	350	0	0	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、新居浜市戦没者追悼式は2年連続で開催中止になり、愛媛県戦没者追悼式にも参加を見合わせたため、追悼式実施業務委託料及びバス借上料は未執行である。来年度については実施の方向で計画しているが、コロナの感染状況により開催方法を検討する必要がある。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>戦没者追悼式については、経費を必要最小限にしながらも、戦争体験の風化を防ぎ、恒久平和の推進のため継続実施していく必要がある。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討					
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新居浜市戦没者追悼式は2年連続で中止となったが、戦没者遺族の高齢化などもあるため、今後、委託先である新居浜市遺族会に対し、感染対策も踏まえた会場や開催規模、戦没者遺族の孫子など次世代の参加などについて検討協議を促し、今後の追悼式のあり方を検討する必要がある。</p>								



## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	03390_02			
事業名(行目名称)		福祉のまちづくり推進費	細事業名	生き生き幸せフェスティバル開催補助				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実				
	基本計画	地域福祉活動の推進と担い手の育成	担当課	地域福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市民	数値	120005				
	手段(どうやって)	さまざまな地域福祉団体との協働による生き生き幸せフェスティバルの開催						
	目的(どんな状態にしたいのか)	失われつつある地域コミュニティを再構築し、地域の中でお互いが支え合う地域福祉の推進を図る。						
III 投入費用								
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		63	610	610	63	補助金 610千円		
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債		0	0	0			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	63	610	610	63			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度	
生き生き幸せフェスティバル参加者数			目標値	5750	5000	3600	3600	3600
			実績	3600	0	0	0	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、生き生き幸せフェスティバル・ボランティアフェスティバル及び新居浜市社会福祉大会(表彰のみ実施)ともに2年連続で中止となった。生き生き幸せフェスティバル・ボランティアフェスティバルについては、参加団体の高齢化・固定化も進んでおり、コロナ禍の中での実施方法を含めた見直しが必要であるが、今年度については現状のまま維持とする。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>今年度の要望で前年度要望より5%減としているが開催がなかったため、来年度については現状維持とする。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和3年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症のため開催中止となったが、地域福祉推進のため、啓発及び福祉意識の醸成は必要であるため、新居浜市社会福祉協議会との連携を図りながら推進していく。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防を実施した上での開催を検討するなど、適宜ウィズコロナに対応する事業実施方法の見直しを行っており、今後も計画通りに事業を進めることが適当である。</p>								

## 令和3年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2021	04256_01		
事業名(行目名称)		若年がん患者在宅療養支援事業費	細事業名	若年がん患者在宅療養支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	地域福祉の充実			
	基本計画	生活困窮者支援を通じた地域づくり	担当課	保健センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	がんの治癒を目的とした治療を行わない40歳未満の若年がん患者		数値	1		
	手段(どうやって)	介護保険の利用ができない40歳未満の若年がん患者が在宅で療養する際の居宅サービスや福祉用具貸与等に要する費用の一部(上限54,000円/月・生活保護受給者は上限60,000円)を助成する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	回復の見込みがないと診断された20歳から39歳までの若年がん患者が、住み慣れた自宅等で自分らしく過ごせるよう、居宅サービスや福祉用具貸与等の在宅で療養に要する費用の一部を助成することで、患者やその家族の負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和2年度 決算額(千円)	令和3年度(千円)			令和3年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	648	648	0	負担金補助及び交付金 648	
財源	県・国支出金	0	324	324	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	0	324	324	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和元年度	令和2年度	令和3年度中間値	令和3年度	令和4年度
利用者数		目標値	0	0	1	1	1
		実績	0	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
県の補助があり、令和3年度より開始した支援事業。今年度は初年度のため、市内の介護サービス事業所や市内の総合病院や関係機関にチラシを配布した。現時点での利用者は0名であるが、必要な人が利用できるように支援できる体制は必要である。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
利用に要する費用の9割助成だが、生活保護受給者は10割助成のため拡大。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和3年度)	A: 計画通りに事業を進めることが適当				
令和3年度より実施した事業であり、支援が必要な人に対して情報が届いていない可能性もある。医療機関や関係機関と連携し、さらなる周知啓発をおこない、制度の認知度を高めたい。							